

社会を明るくする運動

法務省が主唱する「社会を明るくする運動」。市内の小中高校生を対象に犯罪や非行のない地域社会づくりをテーマに作文を募集しました。広報きくち9月～11月で各部門の最優秀作文を紹介します。

中学生の部 最優秀作文

見えない背景に目を向けて

七城中学校2年 金光羽那さん



私は中村^{なかつ}すえさんの記事を読んで、とても印象に残った話があります。それは、少年院に入った少女が「少年院で初めて一日三食食べる生活を知った」と話していたことです。

私はその言葉にとっても驚きました。なぜなら、私にとって一日三食食べることは、当たり前前のことだったからです。朝ご飯を食べ、学校へ行き、給食を食べる。家に帰れば夕食がある。そんな生活を深く考えたことはありませんでした。

しかし、その少女は十分な食事を取ることができない環境で育ち、私たちの言う「普通」の生活を知らないまま過ごしていたのです。

私はこれまで、犯罪や非行をする人は自分勝手な人だと思っていた。しかし、中村さんの記事を読んで、その考えが少し変わりました。もちろん、犯罪や非行は決して

許されません。

しかし、その背景には貧困、孤独、虐待など、本人だけではどうすることもできない問題を抱えている人もいるのだと知りました。私自身、家族と食卓を囲むことや、学校で友達と話すことを当たり前に感じていました。

しかし、その当たり前を得られない人もいます。私はこの記事を読んで、自分が恵まれた環境にいることに気付くとともに、そのような環境で育った人たちの苦しさについても考えさせられました。

最近、若者による犯罪や非行のニュースを目にします。ニュースでは「何をしたらのか」が大きく伝えられることが多いです。私は、その人がなぜその行動に至ったのかという背景にも目を向けることが必要だと思っています。

もし、周囲の誰かが悩みに気付き、安心して相談できる大人がいたら、犯罪や非行に

至ることのない違う未来があったかもしれない。反省した人が同じ過ちを繰り返さないためには、社会の支えも必要だと思っています。

その中で知ったのが保護司の存在です。保護司は罪を犯した人たちの更生を支え、社会の中で再び生活していけるよう見守る活動をしています。過ちを犯した人が立ち直るためには、一人の努力だけでは難しいこともあると思います。人は誰かに支えられることで前を向くことができます。だからこそ、保護司だけではなく、周囲の支えも大切なのだと感じました。

また、社会を明るくするためには保護司だけに任せるのではなく、私たち一人一人の意識も大切だと思います。私自身も友達が悩んでいるときには話を聞ける人でありたいと思います。大きなことはできなくても、相手を思いやる気持ちを持つことは誰にでも

できます。

私は中村さんの記事を読んで、「普通」とは、人によって違うことを知りました。毎日の食事や家族との時間など、私が当たり前だと思っていたことは、誰もが得られることではありません。

私にとっての普通は、誰かにとって普通ではないかもしれない。そして、その違いを知ろうとすることが、人を理解する第一歩なのだと思います。

私が考える明るい社会とは、犯罪のない社会だけではなく、困っている人に手を差し伸べることができる社会であり、過ちを犯した人が反省してやり直すことのできる社会でもあると思います。

私はこれから、相手を決めつけるのではなく、その人の背景にも目を向けられる人になりたいです。そして、私もそんな社会をつくる一人になりたいと思います。

子ども議会

8月24日

市では、中学生が模擬議会の体験を通して、議会や行政の仕組みを理解する「子ども議会」を毎年開催しています。

【問い合わせ先】
生涯学習課 ☎0968(25)7232



今後も地域に目を向け、
関心を持ち続けたい

議長を務めた
中村百花さん
(菊池北中学校3年)

最初は緊張しましたが、自分の役割を意識して進行することができました。地域に目を向け、市民の目線で考える「公共」の視点を持つことの大切さを学びました。



子ども議員の様子や感想は「議会だよりvol.87」(12月1日(火)発行)で紹介予定です

子ども議会とは、市内5中学校から4人ずつと議長役1人の計21人の中学生が市議会の議場で、市の施策やまちづくりについて、疑問に思ったことや子ども目線でのアイデアを提案し、市執行部が答弁する模擬議会のことです。今年は8月24日に開催し、各中学校から2問ずつ、合計10の質問がありました。図書館をさらなる交流の場として活用するための施策提案や中高生によるスポーツを通じた地域づくり、菊池温泉の魅力発信に関する提案など、生徒たちの創造性に富んだ

アイデアや質問がありました。市長や教育長をはじめ、市執行部は、現在取り組んでいる事業や課題などを説明し、子どもたちの視点を政策に生かしたいと答弁しました。

菊池の未来を自分事として意識し、考え、問いかける

これまで、子ども議員の提案から市の施策として実現したものもあります。これから、主体的に行動し、菊池の未来を担う主役になることを期待します。

今回を含め、これまでの子ども議会を二次元コードから見ることがができます。

